もんじょ紹介　No.24

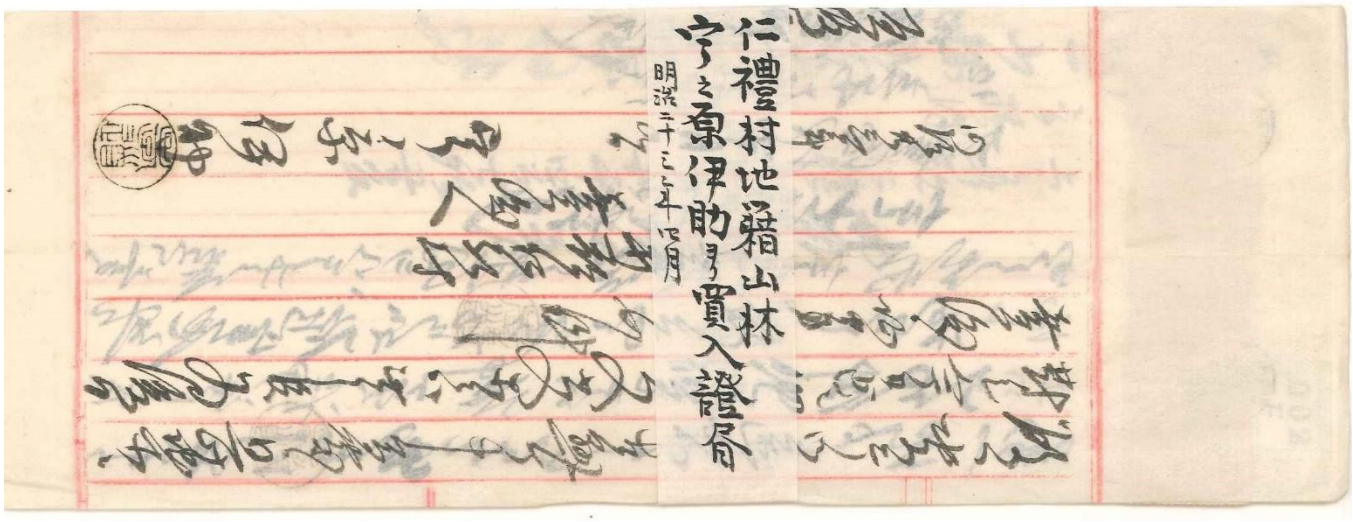
小田切幸一家文書(追加分Ⅰ・Ⅱ)から

―小田切家の山林所有と経営―

はじめに

1　土地家屋買入證書入（F-37）----------　2
　①　地所賣渡之証券（F-37-4）----------　2
　②　小林永太郎ト山林賣買証書（F-37-8）----------　3
　③ ア　仁禮村地籍山林（F-37-23）----------　4
　　イ　土地売渡証書　----------　5
2　小林永太郎間山村山林共植等（K-102）----------　7
3　所有地反別地價金調（F-28）----------　9
　表「小田切家の山林所有」----------　11
　附「コラム 11　長野県庁建築材は小田切家の山林から」　13

おわりに



「小田切幸一家文書」　F-37-4

須坂市文書館

小田切家の山林所有と経営

はじめに

小田切家の山林所有・経営については、その実態については不明な点が多い。

その実態についての部分的な論考は、『旧小田切家住宅修理工事報告書』（2017年10月31日発行）の第２章第２節に載せられている。ここでは「所有地反別地價金調」を中心史料として、山林所有と経営について述べている。

また、『須坂市誌』別巻年表編において、コラム 11「長野県庁建築材は小田切家の山林から」でも紹介されているが、紙面の都合でごく部分的な紹介にとどまっている。

明治 7 年（1874）10 月、長野県庁舎が西方寺西側の長野町大字御殿と腰村字袖長野にまたがった土地（現信州大学教育学部）に新築された。そのおり、新築に使用された材木には小田切辰之助が所有する山林（下高井郡日野村地籍）から伐り出された材木も含まれていた。杉立木 214 本を金 150 円で売却しており、その太さも「目通り1尺2寸より4尺2寸迄」とある。かなりの大木を大量に納入した事実が浮かび上がる。

今回、こうした山林所有と経営にかかわる史料を提示する。

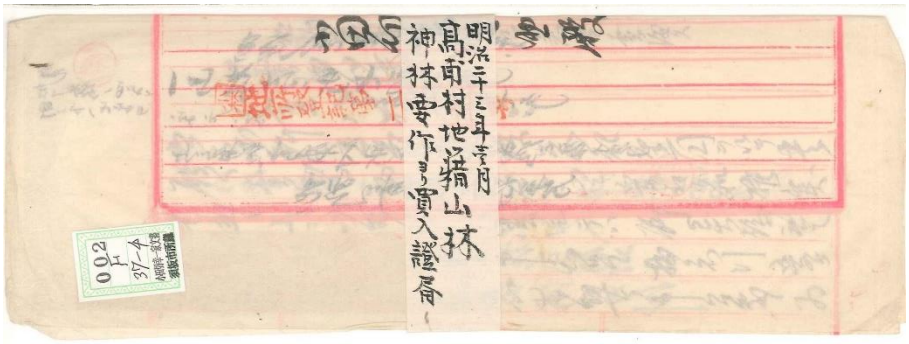
ここでは、日滝村・豊丘村・仁礼村・高甫村（現須坂市）、日野村（現中野市）、高井村・山田村（現高山村）に広大な山林を所有していたことがわかるとともに、明治 20 年代から 30 年代にかけての山林購入の実態も見えてくる。また、日野村間山の小林永太郎とは共同経営的に、伐採樹木の販売および伐採後の苗木の植林を大規模に行っていたこともわかる。伐採樹木の売却先には、宮嵜五造・丸田喜作・松本硯之介・北野吉登などの名前が見られる。

尚、小田切佐太郎は明治 38 年 9 月 5 日に亡父辰之助からの相続登記を行っている。

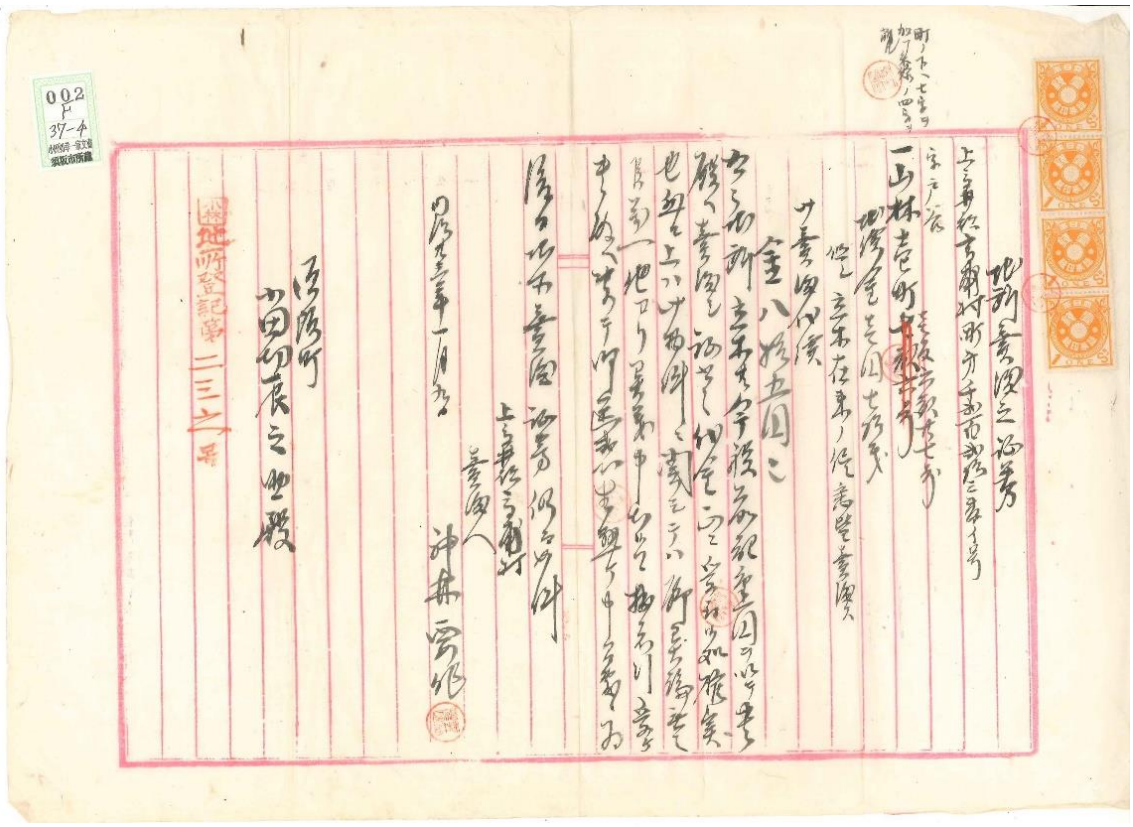
1 土地家屋買入証書入

①F－37－4「神林要作ヨリ買入證書」

帯封



地所賣渡之証券



1 土地家屋買入證書入

① F-37-4

（帯封）明治二十三年壱月
高甫村地籍山林
神林要作ヨリ買入證書

地所賣渡之証券

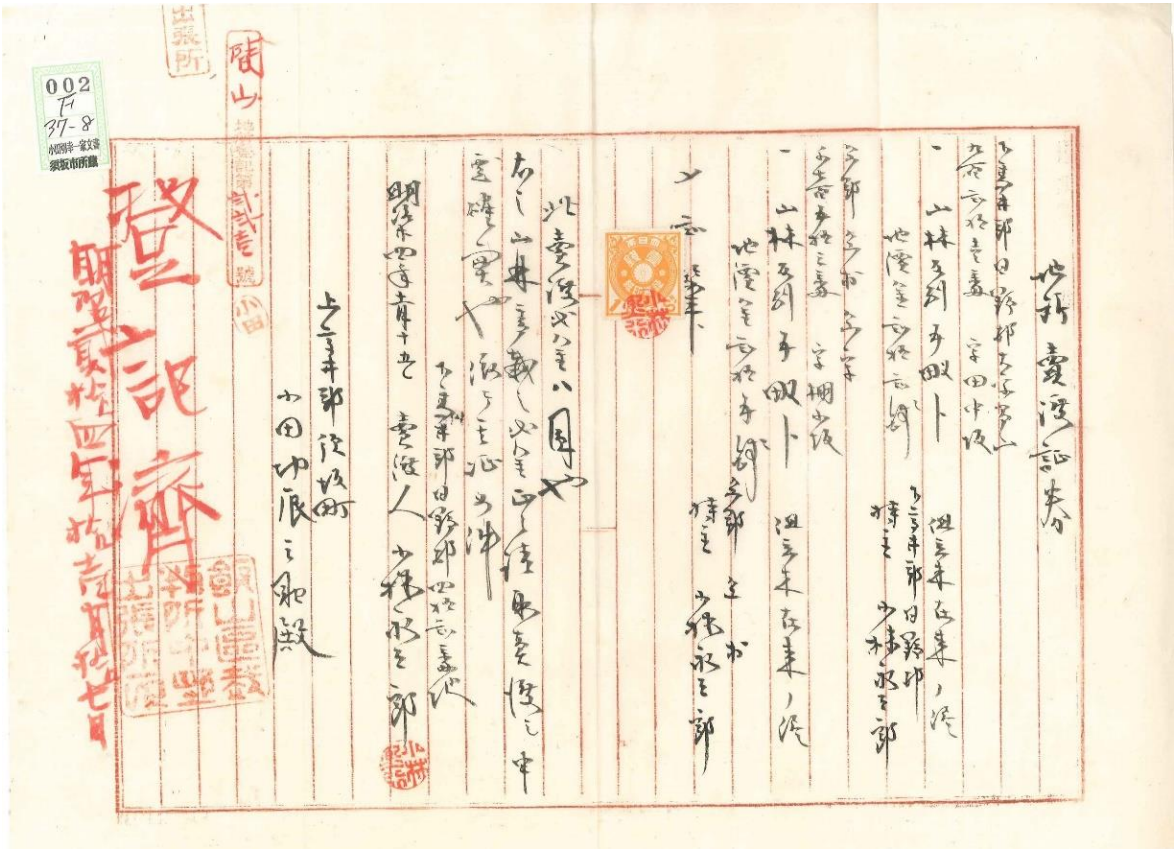
上高井郡高甫村町第千弐百弐拾三番イ号
字戸谷
一山林壱町壱反六畝廿七歩
七畝木歩（朱線にて消去）
地價金壱円七拾銭
但シ　立木在来ノ侭悉皆賣渡ス
此賣渡代価
金八拾五円也
右之地所立木共今般前記金円ヲ以テ、貴殿へ賣渡シ証書之代金正ニ受取候処確実也、然ル上ハ此物件ニ関シテハ聊異論無之候、萬一他ヨリ異義申出候ハヾ、拙者引受ケ貴殿へ決テ御迷惑相懸ケ申間敷候、為後日地所賣渡証券仍而如件
（以下略）

〈解説〉
・この證書は、高甫村の神林要作が小田切辰之助に山林1町1反6畝27歩を金85円で売り渡すという証券（明治23年1月9日付）。
・別表「小田切家の山林所有」の11番参照。

②F－37－8「小林永太郎ト山林賣売証書」

帯封

地所賣渡証券



② F-37-8

山林

（帯封）小林永太郎ト差（朱線消去）賣買証書

田中坂九二一　棚小坂一七五三

地所賣渡証券

下高井郡日野邨大字間山

九百弐拾壱番　字田中坂

一　山林反別　五畝分　但立木在来ノ侭

地價金弐拾弐銭　下高井郡日野邨

持主　小林永太郎

同郡同村同字

千七百五拾三番　字棚小坂

一　山林反別　五畝分　但立木在来ノ侭

地價金弐拾五銭　同郡　同村

持主　小林永太郎

〆弐筆

（証券印紙㊞）

此賣渡代金八円也　（中略）

（以下朱書き）

登記済（飯山区裁判所中野出張所印）

明治弐拾四年拾壱月拾七日

〈解説〉

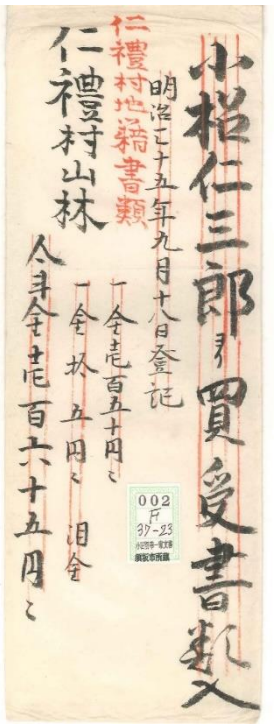
・この證書は、明治24年11月15日付で、日野村の持主小林永太郎が小田切辰之助に売り渡すとする証券。登記は同年11月17日。

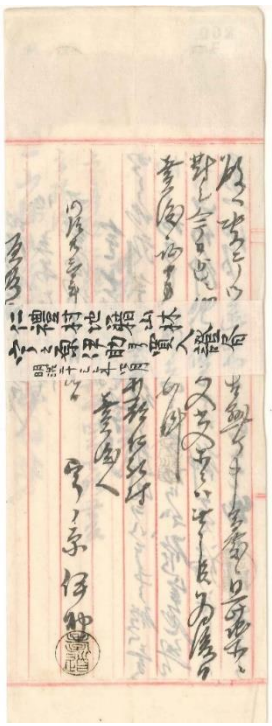
・下高井郡日野村字田中坂の山林5畝歩と同郡同村字棚小坂の山林5畝歩、合わせて2筆を金8円で売り渡すとするもの。

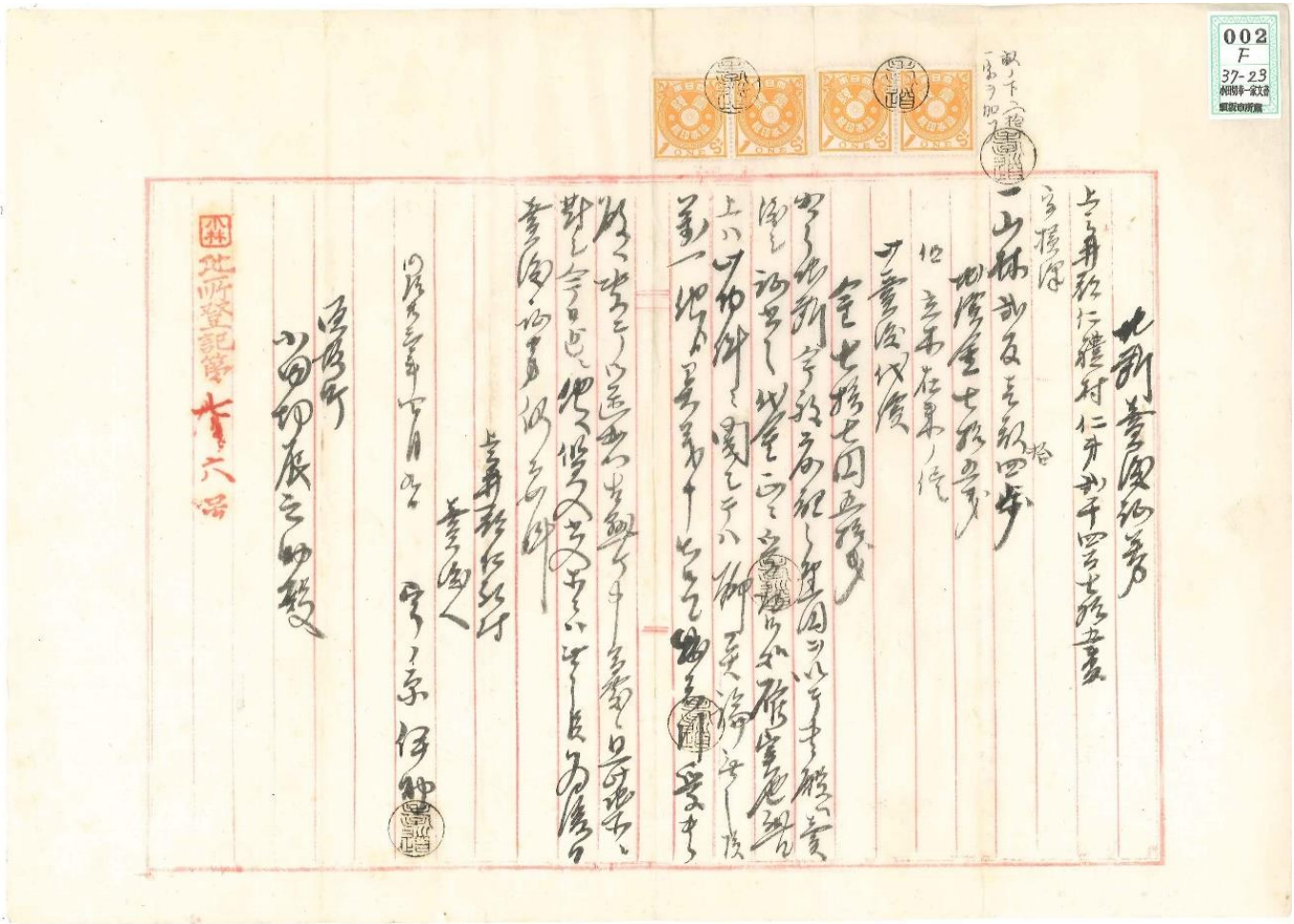
・別表「小田切家の山林所有」の19番・22番参照。

②F－37－23

ア 仁礼村地籍山林


小松仁三郎ヨリ買受書類入


仁礼村地籍山林


地所賣渡証券

③ F-37-23

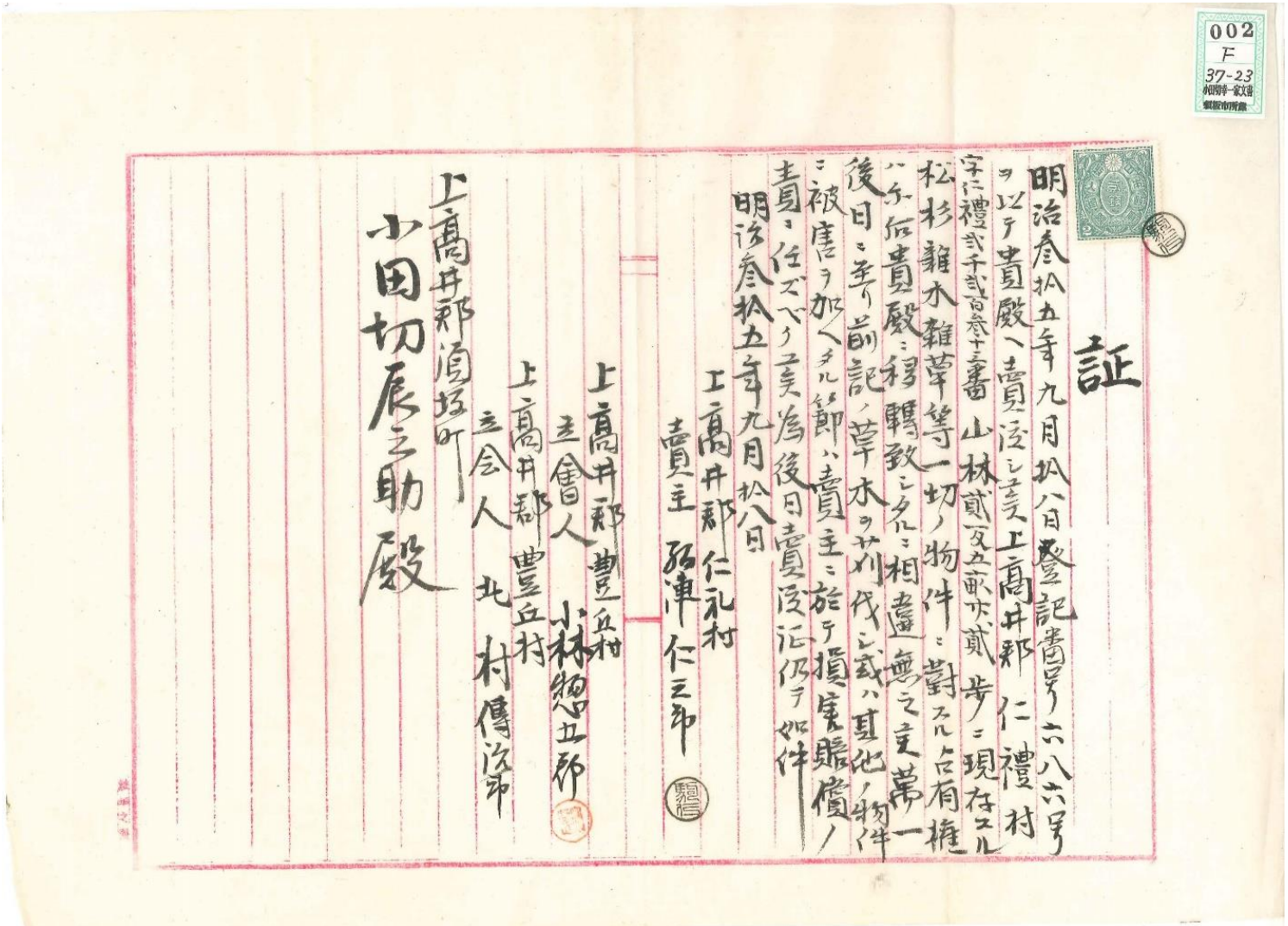
小松仁三郎ヨリ賣受書類木(朱線消去)
明治三十五年九月十八日登記(朱線消去)
仁禮村地籍書類(朱書き) 十金壱百五十円也(朱線消去)
仁禮村山林 十金拾五円也—洩金(朱線消去)
合計 金壱百六十五円也

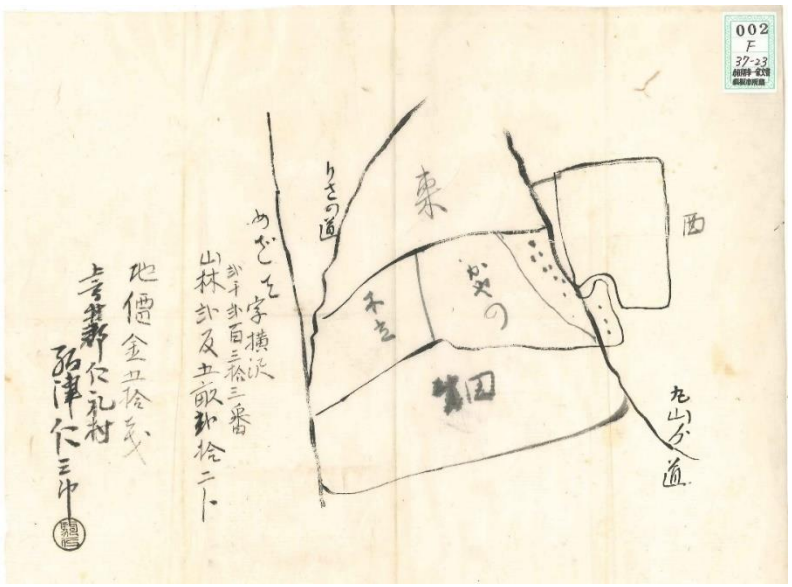
ア(帯封)仁禮村地籍山林
宇之原伊助ヨリ買入證書
明治二十三年四月

地所賣渡証券
上高井郡仁禮村仁第弐千四百七拾五番
字横澤
一山林弐反壱畝拾四歩
地價金七拾五銭
但 立木在来ノ侭
此賣渡代價
金七拾七円五拾銭 (中略)
上高井郡仁礼村
賣渡人
明治廿三年四月九日 宇ノ原伊助㊞
須坂町 小田切辰之助殿

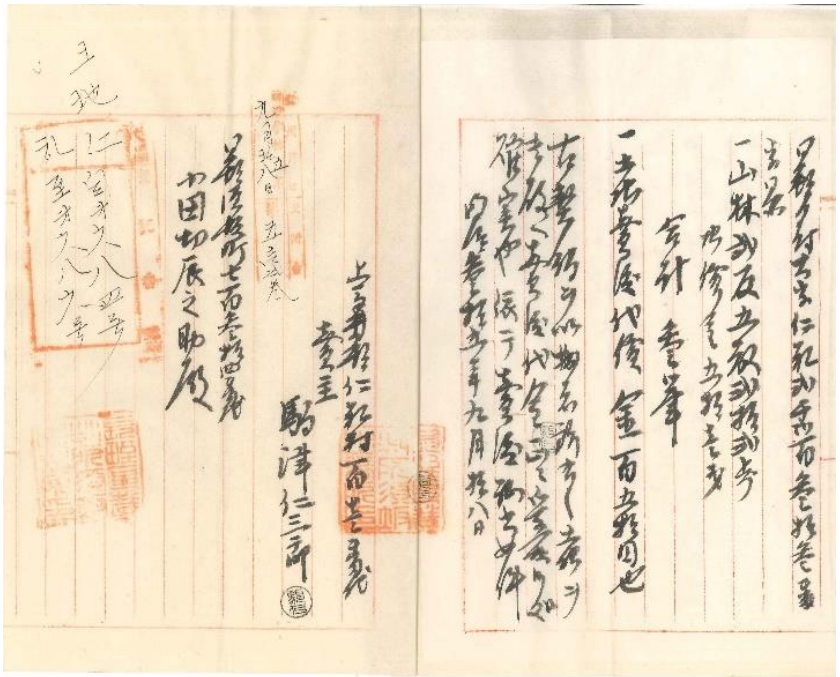
〈解説〉
・この證書は、仁礼村の宇之原伊助が小田切辰之助に仁礼村字横沢の山林2反1畝14歩、立木もそのままにして金77円50銭で売渡すという証券。
・別表「小田切家の山林所有」の9番参照。

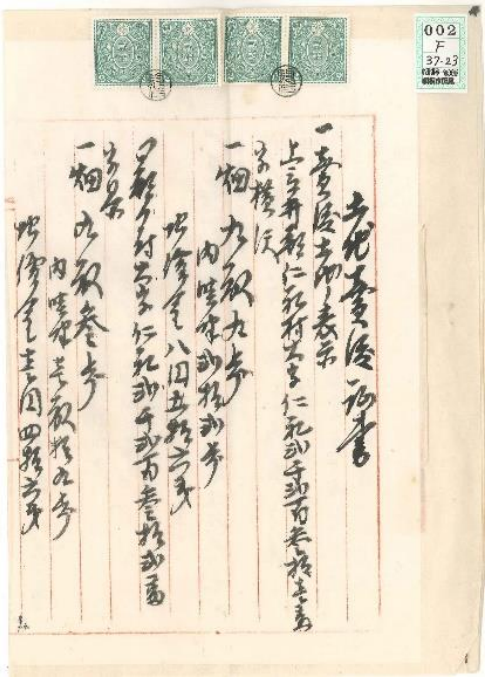
イ 土地売渡証書





附絵図面





土地賣渡証書

イ　土地売渡証書（5頁）

（収入印紙㊞）証

明治参拾五年九月拾八日登記番号六八六号

ヲ以テ貴殿ヘ賣渡シ候、上高井郡仁禮村

字仁禮弐千弐百参十三番山林貳反五畝廿貳歩ニ現存スル

松杉雑木雑草等一切ノ物件ニ對スル占有権

ハ示后貴殿ニ移轉致シタルニ相違無之候、萬一

後日ニ至リ前記ノ草木ヲ苅伐シ或ハ其他ノ物件

ニ被害ヲ加ヘタル節ハ賣主ニ於テ損実賠償ノ

責ニ任ズベク候、為後日賣渡証仍テ如件

明治参拾五年九月拾八日

上高井郡仁礼村

賣主　駒津仁三郎　㊞

上高井郡豊丘村

立會人　小林惣五郎㊞

上高井郡豊丘村

立会人　北村傳治郎

上高井郡須坂町

小田切辰之助殿

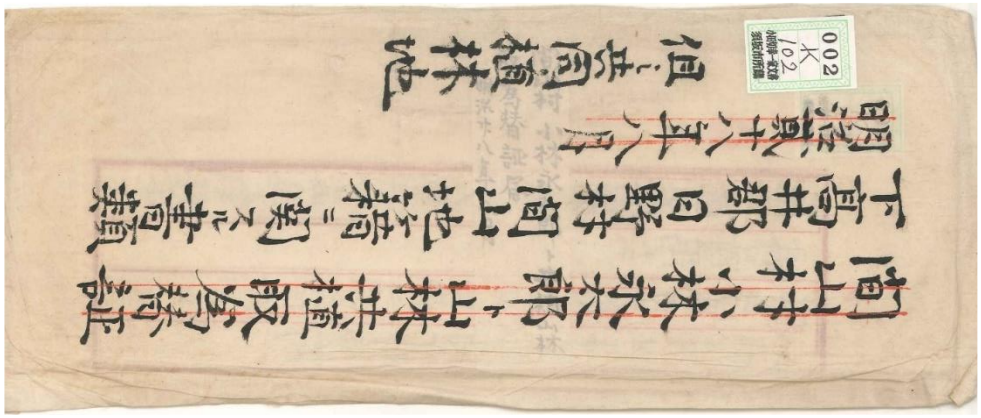
〈解説〉

・この証書は、明治35年9月18日付で仁礼村の駒津仁三郎が仁礼村字仁礼（横沢）の山林2反5畝22歩に松杉雑木雑草など一切の物件の占有権を小田切辰之助に移転するという証書である。

・他の史料からは字横沢の畑9畝9歩・同所畑9畝3歩とこの山林の計3筆を、金150円で売り渡すとする証書が存在する（略地図が付く）。

・別表「小田切家の山林所有」の10番参照。

2 小林永太郎間山村山林共植等（K－102）



上封

共同植林地

帯封

共植山林取為替証書

為取替約定証

為取替約定証

K-102　小林永太郎間山村山林共植等（7頁）

（上封）閘山村小林永太郎ト山林共植取為替証（朱線消去）
下高井郡日野村間山地籍ニ関スル書類
明治弐十八年ホ用（朱線消去）
但シ共同植林地

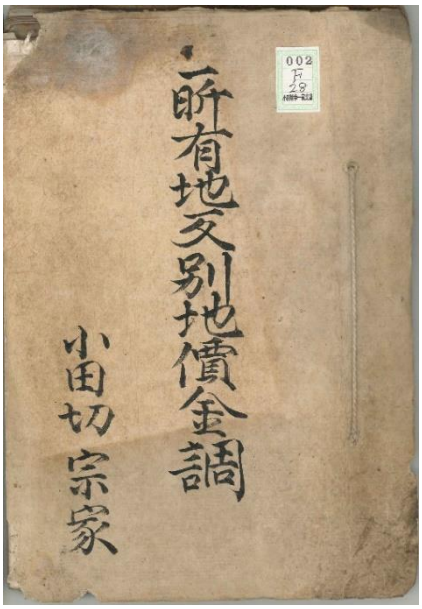
（帯封）間山村小林永太郎ト共植山林取為替証書
明治廿八年八月

（収入印紙囮）為取替約定証
下高井郡日野村大字間山
千八百四拾参番　字柳入
一山林反別七反歩也
地價金参円０七銭也
右ハ小田切辰之助所有山林ナルヲ小林永太郎ニ於テ借地シ杉木植付即チ植林ヲ造成候ニ付、両人間ニ於テ約定スル事左ニ
一杉植付弐千弐百参拾本ハ明治弐拾八年ヨリ同参拾年迠参ヶ年間ニ植込、該苗代ハ勿論植付ヨリ成木伐採迠総テノ植付費用ハ借地人小林永太郎ニ於テ負擔之事
一地租ハ勿論諸税公費ハ地主小田切辰之助ニ於テ相勤メ可申事
一成木期ハ植付初年ヨリ起算シ満四拾ヶ年トシ、以上ノ年間ニ於テ地主借地人合意上賣却致スベク四拾ヶ年以内ハ賣却ナサザル事
一本約定年間内ハ小田切辰之助ニ於テ本地ヲ他へ賣却ナサザル事
一杉木賣却代金ハ総金額ノ内其四分ヲ借地料トシテ地主小田切辰之助へ相納メ、其六分ハ借地人小林永太郎ノ所得トス
右為取替約定証如件
上高井郡須坂町
明治弐拾八年八月　地主　小田切辰之助　㊞
下高井郡日野村
借地人　小林永太郎　囮

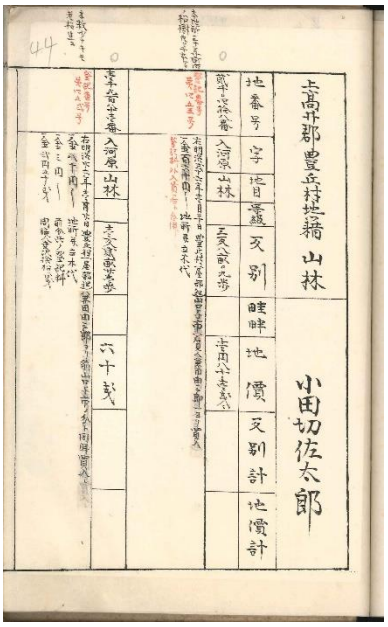
〈解説〉
この史料は、小田切辰之助と小林永太郎との間に交わされた山林の経営に関する史料で、植林と売却についての取決めと言える。その約定の内容の一部分を示すと次のようになる（控も残る）。別表「小田切家の山林所有」の28番参照。

① 小田切辰之助所有の日野村（現中野市）字柳入の山林7反歩を小林永太郎が借地し、杉木を植林することを約定する。
② 杉苗2230本を、明治28年より同30年迄の3ヶ年に植え付ける。成木伐採までの植付け費用は小林永太郎が負担する。
③ 地租その他の諸税は地主小田切辰之助が負担する。
④ 成木期は植付け初年から満40年、地主借地人の合意により売却するが、40年以内の売却はしない。
⑤ 約定年間は、小田切辰之助はこの地所は売却しない。
⑥ 杉木の売却代金の内、四分は地主小田切辰之助に納め、残り六分は借地人小林永太郎の所得とする。

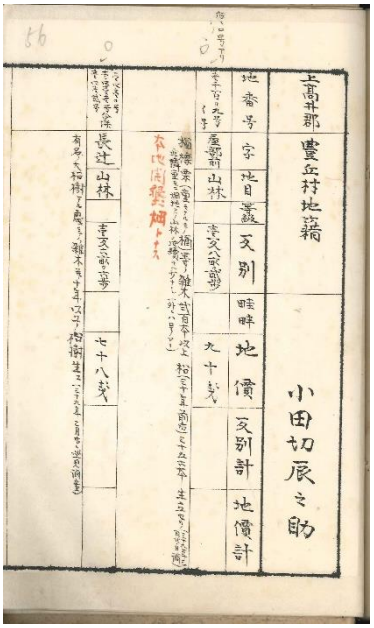
尚、この山林について「所有地反別地價金調」小田切宗家には、本地樹木昭和四年十一月末合議ノ上賣却（詳細ハ山林地所建物賣買帳ニアリ）とある。小林永太郎は山林経営の共同経営者で、しばしば文書に登場する人物である。小林永太郎が売買を主とし、販路を開拓していたようすが窺える。



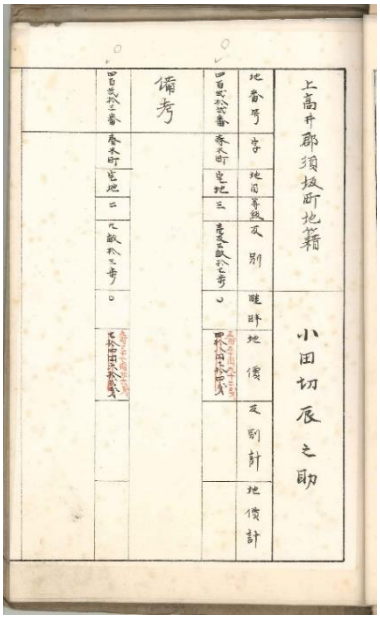
所有地反別地價金調



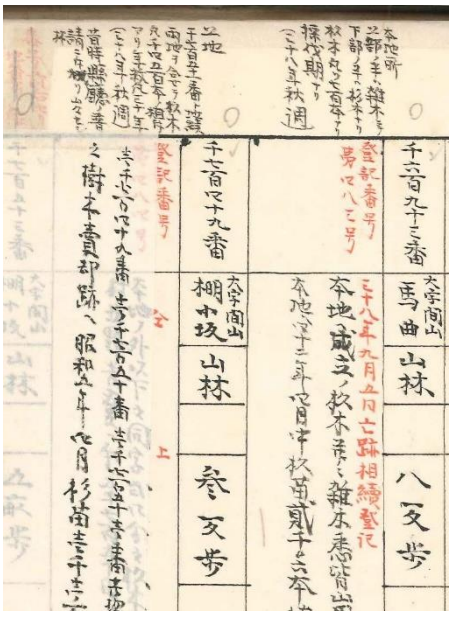
③豊丘村地籍山林(佐太郎)



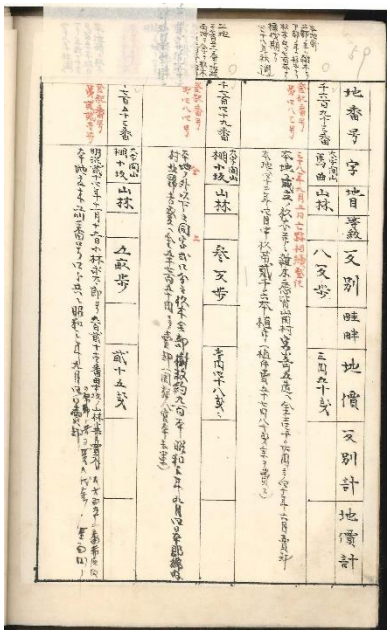
②豊丘村地籍(辰之助)

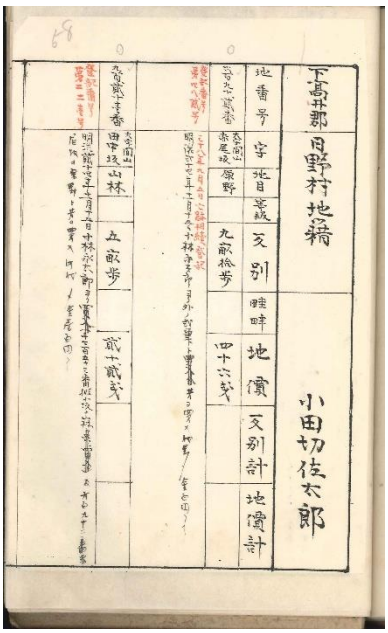


①春木町の宅地



右画像上部拡大部分





④日野村地籍(佐太郎)

F-28　所有地反別地價金調　小田切宗家（9頁）

①　須坂町地籍春木町の宅地
＊422番宅地は、小田切家の本宅の所在地で1反3畝17歩と広い。さらに、423番（9畝13歩）と続き、合計50筆の宅地を所有していた。

②　豊丘村地籍の山林（辰之助所有）
ア　屋部前壱反八畝弐歩
楢、櫟、栗（重モナルモノ楢）等ノ雑木弐百本以上、松（三十年前后）三十五六本生立セリ（三十八年三月廿日調）　近隣重モニ畑地ニテ山林地續キハ少ナシ（外ニ八号アリ）　本地開墾畑トナス
イ　長辻壱反六畝六歩
有名ノ大松樹アル處ニテ雑木幷十年以上ノ松樹生ユ（三十九年三月廿日巡検調査）

③　豊丘村地籍の山林（佐太郎所有）
ア　字入河原三反八畝九歩
右明治二十六年壱月三十日、豊丘村（屋部組）山口与市（后見人兼田由三郎）ヨリ買入　一金百六十円也　地所幷立木代
イ　字入河原壱反弐畝廿壱歩
右明治廿六年壱月廿日、豊丘村（屋部組）金田由三郎ヨリ前山口与市ノ分ト同時買入　一金八十円也　地所幷立木代
一金三円也　前分共ノ登記料
一金弐円五十銭　周旋人垂沢捨松へ口銭

④　下高井郡日野村地籍（佐太郎所有）
ア　大字間山赤尾坂原野九畝拾歩
イ　大字間山田中坂山林五畝歩
ウ　大字間山馬曲山林八反歩
エ　大字間山棚小坂山林参反歩
本地ノ外以下之同字弐口分之杣木全部樹数約九百本、昭和三年九月四日本郡綿内村北野吉登へ金五千七百五十円ニテ賣却（周旋人宮本長策）
（貼札）壱千七百四十九番、壱千七百五十番、壱千七百五十壱番共惣反別五反五畝歩之樹木賣却跡へ昭和五年四月杉苗壱千壱百本植付
（欄外）上地　千七百五十一番ト地續、両地ヲ合セテ杣木凡千四五百本ノ植付アリ、年数凡三十年（三十八年秋調）
昔時縣廳ノ普請ニ付伐リ出セシ林

〈解説〉
この史料は、小田切家の所有する土地全般にかかわるもので、上下高井郡や上水内郡などに所有する土地の地字・所在地地番・等級・反別・地価金額が記されている。辰之助と長男佐太郎に所有が書き分けられている。史料とすれば、小田切家の土地所有と経営にかかわる貴重な史料と言える。

・別表「小田切家の山林所有」をご覧いただきたい。
日滝村・豊丘村・仁礼村・高甫村・日野村・高井村・山田村において、計46筆の山林を所有していた。
・工の地番1749番大字間山字棚小坂の山林についての内容は、『須坂市誌』別巻年表編コラム11「長野県庁の建築材は小田切家の山林から」を参照していただきたい。
別表「小田切家の山林所有」の21番にある。
・綿内村北野吉登は、北野建設の創始者で当初は木材業で財を成す。美術品収集家としても有名である（北野美術館）。
＊尚、小田切家は長野市石堂町に宅地を所有しており以下のようにある。
明治37年3月24日相続登記　小田切佐太郎
長野市大字南長野字石堂町並1455番　市街宅地
2畝09歩
戸番石堂町161番地　瓦葺木造二階家居宅1棟
間口4間奥行3間2尺・瓦葺廁5合・建坪13坪3合
3勺2階12坪8合3勺
本地所　39年6月12日小田切清之丞へ売却

表　小田切家の山林所有

F-28「所有地反別地價金調　小田切宗家」

村・地字	地番	反別	特記事項
1 日瀧村天狗岩	5131	8反9畝20歩	
2 鳶岩	5366	2町4反9畝10歩	
3 古城	5400	5反2畝00歩	
4 豊丘村入河原	2048	3反8畝09歩	右明治26年1月20日豊丘村（屋部組）山口与市（後見人兼田由三郎）ヨリ買入、一金160円也、地所幷立木代
5 入河原	1981	1反2畝21歩	右明治26年1月20日豊丘村（屋部組）金田由三郎ヨリ前山口与市ノ分ト同時買入レ、一金80円也、地所幷立木代
6 入河原	1908-2	2畝01歩	明治27年1月25日豊丘村阪井澤正永田萬作ヨリ買入レ、一金20円也、右地所代
7 入河原	2020-ロ	1反0畝17歩	明治33年1月28日豊丘村々長宮嵜弥作（村持分）ヨリ2020番ハ号ト共ニ競落ニテ買入レ
8 入河原	2020-ハ	6畝05歩	明治33年1月28日豊丘村々長宮嵜弥作（村持分ニテ財産管理人）ヨリ前記ノロ号ト共ニ競落買入レ
9 仁禮村　横澤	2475	2反1畝14歩	明治23年4月9日仁礼村字之原伊助ヨリ買入、一金77円50銭也、本地所之杉木全部明治38年2月29日金550円ニテ牧金作へ売却
10 横澤	2233	2反5畝22歩	明治35年9月18日小松仁三郎（仁礼）ヨリ地続キノ2231、2232番ノ畑ト共ニ買入レ、立木悉皆附
11 髙甫村　戸谷	1223－イ	1町1反6畝27歩	明治23年1月9日髙甫村（八丁）神林要作ヨリ買入、一金85円也、本山林立木全部150円ニテ44年10月3日丸田喜作へ売却
12 豊丘村屋部前	1109－イ	1反8畝02歩	楢櫟栗（重ナルモノ楢）等ノ雑木200本以上、松（30年前後）35，6本生立セリ（39年3月20日調）近隣重モニ畑地ニテ山林ノ地続キ少ナシ
13 豊丘村　長辻	1410・1411 1412合併	1反6畝06歩	有名ノ大松樹アル処ニテ雑木幷10年以上ノ松樹生ユ、 （39年3月20日巡見）
14 入河原	2021	2反7畝26歩	老松生ユ現下所有地中ニテハ第一ノ老松、伊勢宮社ノ西ナリ、2020番ロ号同番ハ号等共東隣ナリ（39年3月20日調）、本地成立ノ松樹大正10年6月松本硯之助へ金2600円ニテ売却
15 入河原	2047	2反1畝01歩	明治23年2月27日西澤宇三郎（中島村）ヨリ買入レ、買入田畑山林7筆ノ内2048番ノ南西隣ニテ雑木生ユ（39年3月20日調）
16 入河原	2051	1反4畝07歩	同上、2048番松大林ノ南隣ニテ雑木生ユ（39年3月20日調）
17 入河原	2087	1反1畝26歩	同上
18 屋部前	1109－ロ	5畝07歩	本番イ号ノ東隣ニテ生立ノ樹木イ号ニ同ジ
19 日野村　間山 田中坂	921	5畝00歩	明治24年11月15日小林永太郎ヨリ1753番棚小坂ノ山林（以下後筆）及692番赤尾坂の原野と共に買入、此代〆金100円也
20 馬曲	1693	8反0畝00歩	38年9月5日亡跡相続、本地ノ成立ノ杉木幷ニ雑木悉皆山田村宮嵜五造へ金1020円ニテ40年6月売却、本地42年4月中杉苗2006本植付（植付費57円80銭余）

村・地字	地番	反別	特記事項
21 棚小坂	1749	3反0畝00歩	同上、本地ノ外以下之同字2口分之杉木全部樹数約900本、昭和3年9月4日本郡綿内村北野吉登へ金5750円ニテ売却（周旋人宮本長策）
22 棚小坂	1753	5反0畝00歩	明治24年11月15日小林永太郎ヨリ921番田中坂ノ山林及962番赤尾坂の原野と共に買入、代金〆金100円也　本地立木前番号ロト共ニ昭和3年9月4日売却
23 棚小坂	1751	2反0畝00歩	38年9月5日亡跡相続登記、本地立木前番号ロト共ニ昭和3年9月4日売却
24 間山前之小場	1780	9反0畝00歩	同上
25 前之小場	1782	2反2畝00歩	同上
26 前之小場	1783	6反0畝00歩	38年9月5日亡跡相続登記
27 間山　柳入	1842	5反0畝00歩	同上、本地樹木大正2年3月20日池田喜造弁小林忠蔵へ金2000円ニテ売却、同3年春本地へ杉苗1705本植付
28 柳入	1843	7反0畝00歩	同上、明治28年杉苗2230本植付、明治67年迄（40年間）保存之約、本地樹木昭和4年11月末合議ノ上売却（朱書き）
29 柳入	1868	1町1反0畝00歩	同上、本地杉樹全部大正8年3月宮本長作へ金7800円ニテ売却
30 高井村　灰野越	7392	1町1反2畝00歩	明治33年2月7日須坂町小池恒太郎ヨリ買入レ樹木共一金158円也、下部之杉木43年6月北平之山林ト共入換ニテ売却（見積1100円）
31 灰野越	7393	5反4畝28歩	明治36年11月6日宮島吉之助ヨリ次番ノ7394番ト共ニ買入レ、一金225円也、地所弁樹木代
32 灰野越	7398	2反1畝25歩	明治36年11月6日前番号ト共ニ買入レ、本地所之雑木弁杉木大正12年12月20日小出巳之吉へ代金1450円ニテ売却
33 北平	7686	2町2反7畝20歩	右明治43年6月5日長谷川清助ヨリ灰野越杉木ト交換ニテ買入（見積1100円）
34 山田村中山松原	1271	4畝20歩	39年3月29日相続登記
35 松原	1272	1反0畝23歩	
36 松原	1273	1畝24歩	
37 中山松原	1274	1畝24歩	
38 松原	1275	1畝24歩	
39 松原	1276	1畝24歩	
40 松原	1284	6畝01歩	
41 松原	1285	2畝22歩	
42 松原	1291	4反0畝12歩	
43 松原	1292	1反4畝17歩	明治35年12月2日竹内巳ノ吉、同庄吉ノ両人ヨリ本番号ヨリ1295番迄ノ田筆ヲ合セ買入、金143円50銭也
44 松原	1293	6畝14歩	前ト同時買入
45 松原	1294	3畝09歩	同上
46 松原	1295－イ	8畝22歩	同上

コラム11　長野県庁建築材は小田切家の山林から

明治七年（一八七四）十月、長野県庁舎が西方寺西方の長野町字御殿と腰村字袖長野にまたがった土地（現信州大学教育学部）に新築された。このとき、新築に使用された材木には小田切辰之助が所有する山林から伐り出された材木もあった。

『縣廳建営樞要録』（長野県立歴史館蔵・写真1）によると、

材木　明治七年三月十六日　高井郡須坂町
一、金百五十円　小田切辰之助
枚立木弐百十四本　目通壱尺弐寸より四尺弐寸迄
（渡済印）同三月三十一日　小林九之丞へ相渡ス

とある。この史料から、杉立木二一四本を一五〇円で小田切辰之助が売り渡したことがわかる。かなりの大木を大量に納入したものといえる。

では、この材木はどこの山林から伐り出されたものだろうか。

「所有地反別地価金調」（小田切幸一家文書）によると、日野村大字間山棚小坂（中野市）山林一七四九番の項の欄外上部に以下のような記述がある（写真2）。

上地、千七百五十一番ト地続、両地ヲ合セテ枚木凡千四五百本ノ植付アリ、年数凡三十年（三十八年秋調）、昔時縣廳ノ普請ニ付伐リ出セシ林

これにより、日野村大字間山棚小坂の山林が県庁舎新築に使用された材木の調達地とわかる。また、杉木の植え付け年数がおよそ三〇年とあることから、明治三十八年（一九〇五）秋の調べで樹齢約三〇年は七年の伐り出しと一致する。

下欄の諸記欄には、「同字二口分之枚木全部、樹数約九百本、昭和三年九月四日本郡綿内村北野吉登へ金五千七百五十円ニテ売却」とあり、さらにまた二三年後の昭和三年（一九二八）には、杉木約九〇〇本を五七五〇円で売却したことがわかる。その上の貼紙には、「売却跡へ昭和五年四月杉苗壱千壱百本植付」ともあり、大量の材木の売却と植林という山林経営の実態が見えてくる。

小田切家では、日野村大字間山以外にも仁礼村（五反六畝一五歩）、豊丘村（一町八反四畝一八歩）、高甫村（一町一反六畝二七歩）などの山林所有が見られ、その規模はきわめて大きなものであった。

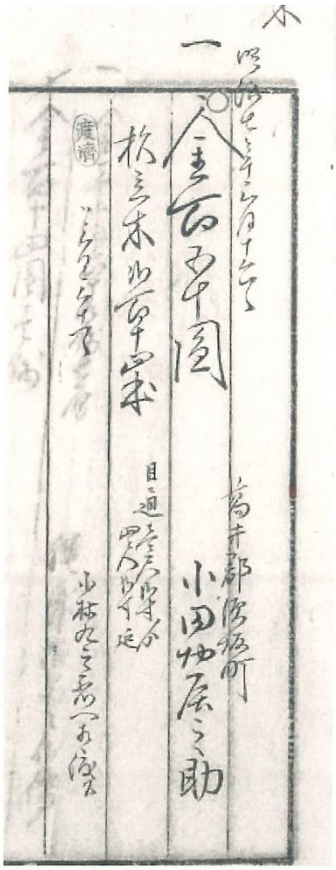


写真1　『縣廳建営樞要録』（長野県立歴史館蔵）

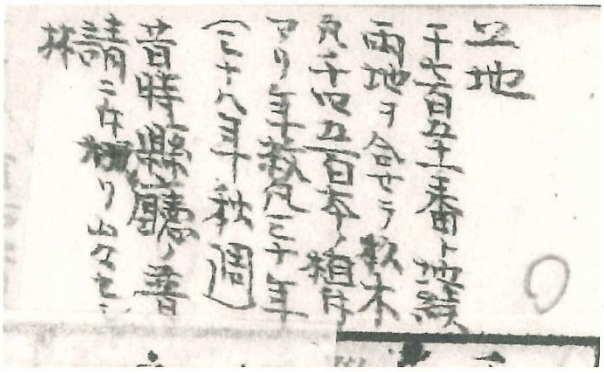


写真2　「所有地反別地価金調」（小田切幸一家文書）

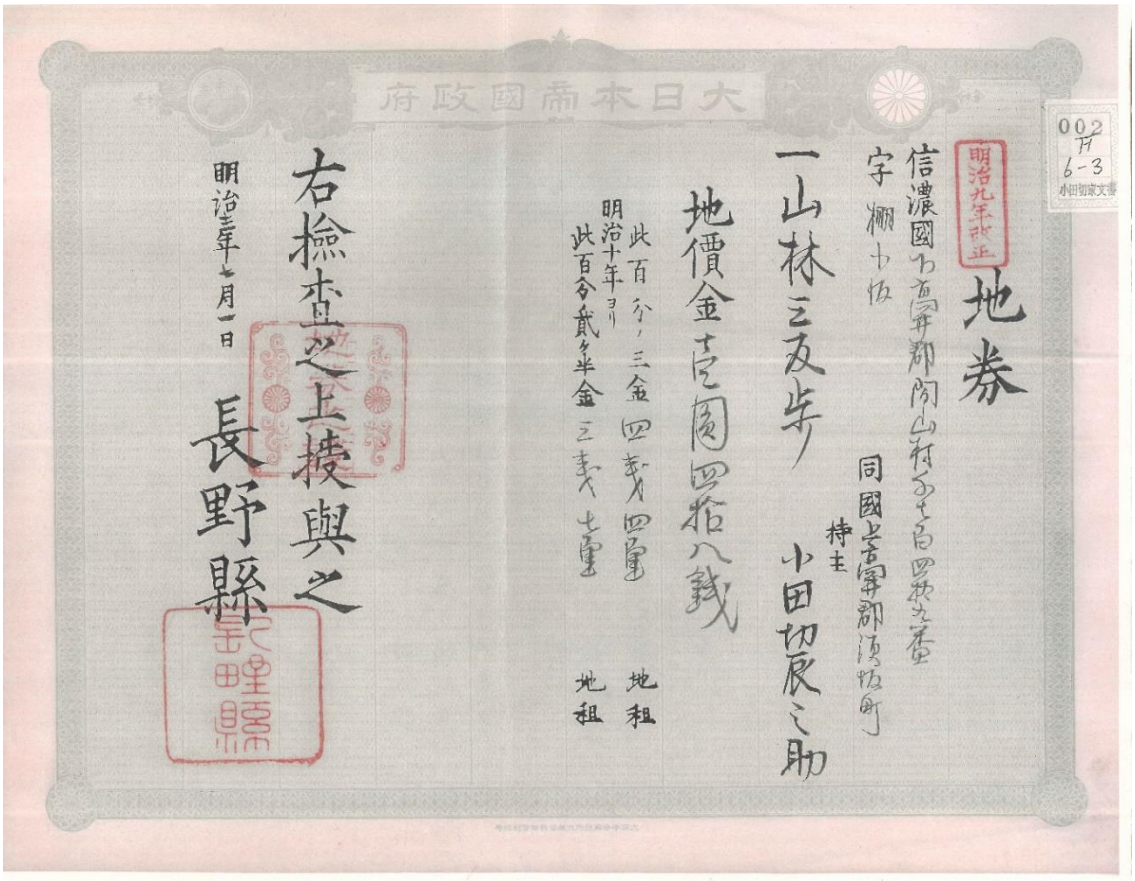
『須坂市誌　別巻　年表編』より

おわりに

明治 11 年(1878)7 月以降の現存する「地券」(134 筆)をみると、山林は 27 筆である。そのうち、間山村(後に日野村間山)が 11 筆、中山村(山田村中山)が 8 筆などとなっており、この時点での間山村内の山林所有が大きい位置を占めている。また、地券の裏書を見ると全 27 筆の内、明治 11 年(地券の最初の発行時)以降の山林の購入が 12 筆であることもわかる。

その後、「表　小田切家の山林所有」の特記事項にあるように、多方面から山林を買い集め最終的には 46 筆(F－22「所有地反別地価金調」の記載による)を所有するようにまでなっていた。各筆の特記事項をみると、買入・伐採・販売・植樹という一連の経営の流れがわかってくる。

「表　小田切家の山林所有」の 21 番が県庁建築に使用された材木の調達地で、地券(F－6－3)を下記に示す。おそらくは江戸期から所有する山林であろう。明治7年3月時点の材木の販売代金150円は、現在の価格に換算すると約300万円になる。



「小田切幸一家文書」F-6-3

◆お車で：上信越自動車道 須坂長野東ICより約5km(車で約10分)
無料駐車場30台
◆電車で：長野電鉄須坂駅下車徒歩約15分

もんじょ紹介 No.24

==========

発行 令和３年8月　須坂市文書館
須坂市大字須坂812番地２
(旧上高井郡役所内)
電　話 026-285-9041
ＦＡＸ 026-285-9175
E-mail bunshokan@city.suzaka.nagano.jp

==========